

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ものづくり技術者の育成を通して人づくりを行い、地域社会に貢献し信頼される学校をめざす。
- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して、社会で自立した人間として力強く生きるための総合的な力（人間力）の育成をめざす）
 - 2 自立した工業人の養成を实践する学校（産業界の変化に対応できる創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
 - 3 健全な社会人の育成を实践する学校（豊かな人間性や基本的な生活習慣を確立した社会人基礎力の育成をめざす）
 - 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し、生徒の成長に組織的に寄与し達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

- 生徒の『創造』・『協力』・『挑戦』を実現する学校経営
- 1 人間力の育成（基礎学力やコミュニケーション力、規範意識を備え、自己統制力を持った生徒の育成をめざす）
 - (1) 社会人基礎力の育成（基礎学力の向上と人間性、基本的な生活習慣の確立）
 - ア 基礎学力の向上を図り、社会人として必要な文書知識や数学的な思考方法などを育成する。（基礎学力テスト結果の向上）
 - イ これからの産業人に必要な知識、技術・技能を融合し、課題を解決していく力、コミュニケーション力、チーム力などを育成する。
 - ウ 全職員で、基本的な生活習慣の向上と定着を図る取組みを推進し、生徒自らが自己に気づき自ら改善する力を培う。（年間遅刻者数 平成 31 年度に 1,000 名以下（平成 30 年度 1,413 名～2021 年度までに 800 名以下にする。）
 - エ 生徒（会）活動の一層の推進を図るとともに、部活動の活性化をめざす。（挨拶運動の発展、部活動入部率 平成 31 年度に 50%以上（平成 30 年度 42%）～2021 年度まで 50%以上を維持する。）
 - (2) 進路実現に向けたキャリア教育の充実
 - ア 系統的なキャリア学習の一層の推進を図り、就職基礎能力を育成する。（就職一次試験合格率 平成 31 年度に 90%以上（平成 30 年度 89.7%）～2021 年度まで 90%以上を維持する。）
 - イ 企業や労働関係団体等と連携を促進し、インターンシップや企業関係者講演会等の機会を充実し、職業意識や勤労観を高める。
 - ウ 大学等への進学希望者の進路保障の実現（大学進学希望者の進学率 100%の継続）
 - (3) 人権教育及び支援教育の充実
 - ア 学校教育活動全体を通して、他者を尊重し自己を大切に人権意識の向上を図る。（いじめ等の早期対応による重大事象ゼロの継続）
 - イ 支援教育コーディネーター（教育相談）を中心として、支援の必要な生徒への組織的な取組みの充実を図る。
 - 2 工業教育の充実（実践的スキル養成重点校としての充実）
 - (1) 専門性向上に向けた取組みの充実
 - ア 企業等との連携を推進し、各専門系の課題研究等の一層の充実を図る。
 - イ 資格支援センターのサポート機能と連動し、各専門系、教科等の資格取得の取組みの一層の活性化を図る。（年間ジュニアマイスター資格取得者数 50 人以上）
 - ウ 各専門系の各種技能コンテスト等への組織的な取組みを推進し、近畿・全国大会への出場及び上位入賞をめざす。
 - エ PBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）の導入に向けての取組みを検討する。
 - (2) 工業教育の魅力発信
 - ア ものづくり教育を基盤に小中学校や支援学校の児童生徒や教員に対して、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。
 - イ 工科高校の魅力を発信するため、インターネット・メディア・イベントなどを活用した、より効果的な広報活動の一層の推進を図る。
 - 3 教員の資質向上
 - (1) 学校組織の活性化とともに、校内研修及び OJT を積極的に推進し人材育成に努める。
 - (2) 教員相互の公開授業や研究授業の積極的な推進による授業力向上と ICT を活用した教育を推進する。（ICT 授業活用率 平成 31 年度に 55%以上（平成 30 年度 53%）～2021 年度までに 60%にする。）
 - (3) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進するとともに教員のカウンセリングマインドの向上を図る。
 - 4 地域との連携
 - (1) 堺・高石地域の地場産業等との連携を通して、生徒の自己実現をめざした活動の充実を図る。
 - (2) NPO や各種地域団体との連携を一層深め、生徒会・クラブ活動などを通じた地域貢献をめざす。
 - (3) 校内防災体制（校内備蓄の推進）の充実を図るとともに地域の防災計画への連動を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>「学校に対する意識」について保護者の関係 4 項目平均が 83%（昨年：84%）、生徒の関係 6 項目平均が 70%（昨年：65%）。保護者については例年並みであるが生徒については 5 ポイント改善された。担任が保護者・生徒にきめ細かい対応を行っている成果と考える。</p> <p>「学習指導」について保護者の関係 3 項目平均が 72%（昨年 72%）、生徒の関係 5 項目平均が 72%（昨年：69%）。保護者・生徒共に例年並みに高い値を示している。しかし、教員の関係 2 項目（「生徒に工業に関する十分な知識や技術を身につけさせて卒業させている。」50%（昨年：56%）「生徒の基礎学力は向上してきている。」32%（昨年：44%））については前年より大幅に下回っている。生徒・保護者と教員の認識に齟齬がある。教員は進路等を勘案し補習・補講又は授業改善を行い、より一層生徒の基礎学力を高める必要があると考えている。生徒にとってわかりやすい授業の実現に向けて ICT 機器の導入・活用を推進していきたい。</p> <p>本校は実践的スキル養成重点型として資格やコンクール等に積極的に取り組んでいるが、保護者の「子供は、資格取得に意欲的に取り組んでいる。」66%（昨年：67%）、生徒の「資格取得に意欲的に取り組んでいる。」56%（昨年：57%）と低い値を示</p>	<p>第 1 回（6/24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着について、基礎学力の中でも英会話の必要性も追加してほしい。製造現場では外国人と一緒に働くことが増加し英会話によるコミュニケーションが重要となっている。 ・工業教育の充実について、ものをつくることを 1 年生からやる機会があれば良い。課題研究の発表会を見て、もっと自由な発想ができるような授業が 3 年間通してあればいいと感じた。 ・昨年に引き続き、地域の防犯対策として防犯カメラの設置もお願いしたい。堺工科の学校周囲にも防犯上問題とされる箇所へ設置を検討してほしい。 <p>第 2 回（11/27）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を話す機会や環境を多くつくることが大切ではないか。英語だけで授業を受ける時間の確保や英語でプレゼンテーションするなど英語を聞く・話す機会を多くつくる必要がある。 ・資格取得について、進路先の会社などに必要な資格についてアンケートを取ってはどうか。その情報をもとに生徒へ資格取得を促せば取得率も上がり、また資格を持っているというプライドが生まれれば学習意欲にもつながらないか。 <p>第 3 回（2/14）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度学校経営計画（案）について、数値目標に拘らず生徒の実態に合った対応をすることが

府立堺工科高等学校

<p>している。資格支援センターや各系、担任から積極的に情報発信を増やし生徒が興味関心を抱くよう取り組む必要がある。</p>	<p>大切である。また、問題事象の発生は日頃から指導をすることが重要である。ヒヤリハットの法則より小さな事象を無くすことで重大事象を防げることが言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを行う上で、どこかの授業で行った内容を実施しても効果はなく、堺工科の生徒に合った内容のものを準備する必要がある。 ・大学でもアクティブラーニングを進める為に研修を実施し、段階的に効果のある授業づくりに勤めている。また、部屋をフリースペースに改良して発言し易い雰囲気づくりも大切である。 ・働き方改革において、全校退庁日を設定して必要以上に退庁率を気にすると、仕事の持ち帰りが増えて別のトラブルが心配されるので慎重な対応が必要である。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>人間力の育成 (1) 社会人基礎力の育成</p>	<p>(1) ア基礎学力の向上</p>	<p>(1) ア・第1学年については、数学は習熟度別指導、英語は少人数指導を継続実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学の計画的な実施によって、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。 ・わかる授業を観点としたより丁寧な授業改善を図る。 	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目の肯定率を前年度以上をめざす。(H30年度76%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの学年平均得点の前年度平均を上回る。(第2、第3学年) (H30年度1年185点、2年185点) ・朝学の基礎学力に関する項目の得点率の年度内向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者72%、生徒75%、教員:32% 【 】 ・基礎力診断テストの学年平均得点も前年度平均を上回った。(第2学年188.3点、第3学年185.2点)【 】 ・64.5ポイントから83.7ポイントに上昇【 】
	<p>イ主体性の育成 ウ生徒指導の充実(マナー向上含む)</p>	<p>イ・新学習指導要領のめざす主体的な学びなどについての校内研修を実施する。</p> <p>ウ・学校として統一的した生徒指導と学年団と連動した指導の徹底で基本的な生活習慣の改善を図る。(遅刻指導、特別指導等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみの指導を徹底する。 ・校内飲食指導を定着させる。 	<p>イ・主体的な学びの校内研修を実施する。</p> <p>ウ・年間遅刻件数を一人あたり1.2回以下にする。(H30年度一人あたり1.7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退及び留年者数を前年度比10%減少をめざす(H30年度 中退7名、留年12名) ・特別指導件数を15件以下をめざす。(H30年度24件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を実施【 】 ・年間遅刻件数を一人あたり3.0回 【 】 ・中退23名、留年3名 【 】 ・特別指導件数中退27件【 】
	<p>エ生徒活動の活性化</p>	<p>エ・自主的な生徒会活動による挨拶運動、行事、ボランティア等の生徒活動の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年学年団と連携した新入生の入部促進を図る ・新たに策定した本校の部活動活動方針に基づく部活動運営を行う。 ・PTAと連携した頑張る部活動の支援策の推進 	<p>エ・学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活の満足度に関する項目の肯定率を前年度比10%の向上をめざす。(H30年度68%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭アンケート結果で学校行事の満足度に関する項目の肯定率前年度比を向上させる。(H30年度 体育祭73% 文化祭83%) ・第1学年の部活動加入率50%をめざす。(H30年度第1学年49%) ・部活動の近畿大会、全国大会への出場及び上位入賞をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定率76.5% 少し未達であるが【 】 ・体育祭 91% 【 】 ・文化祭 83% 【 】 ・【4月】40%、【9月】39% 少し未達であるが【 】 ・ホッケー部 初北の選考会出場 【 】 ・自動車部 SUZUKA Ene-1チャレンジ KV-2cクラス2位 ・弓道部 近畿大会 個人出場
<p>(2) キャリア教育の充実</p>	<p>(2) ア 就職基礎能力の育成</p>	<p>(2) ア・各学年におけるキャリア学習を再整理し学習内容の一層の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職基礎能力(知識、文書力、コミュニケーション力等)の育成を図る。 ・就職試験対策の強化を図る。(面接指導の充実) 	<p>(2) ア・学校目標に連動したキャリアマトリックスを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の全員合格をめざす。 ・大学等進学希望者の全員合格をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアマトリックスを作成【 】 ・学校斡旋就職希望者186名中186名合格、公務員希望者2名中2名合格 【 】 ・大学等進学希望者45名中45名合格 【 】
	<p>イ インターンシップ等の機会の充実</p>	<p>イ・府商工労働部の「ものづくり企業魅力発信事業」を活用して、インターンシップの受入企業開拓等の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に生徒アンケートを行い生徒のニーズを整理し企業への提案活動を行うことで生徒が参加したい企業を増加させ参加者数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する学校教育自己診断の肯定率を前年度10%の向上をめざす。(H30年度70%) ・就職一次試験合格率90%以上をめざす。(H30年度89.7%) <p>イ・インターンシップ参加者数を前年度比10%の向上をめざす。(H30年度49人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加生徒によるアンケート結果で満足度に関する項目の肯定率90%以上をめざす。(H30年度91%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定率84% 【 】 ・就職一次試験合格率88.8% 【 】 ・参加者数39名 少し未達であるが【 】 ・肯定率94.9%【 】
<p>(3) 人権教育、支援教育の充実</p>	<p>(3) ア人権意識の向上</p>	<p>(3) ア・HR活動、学年・全体集会などを通じて、身近な人権課題を考える機会の充実を図る。いじめ等の組織的な早期対応を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある生徒との共同学習の充実を図る。 	<p>(3) ア・いじめ等の人権に関わる問題行動事象の早期対応による重大事象ゼロをめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事象は0である 【 】
	<p>イ支援教育の充実</p>	<p>イ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制を継続し、「個別の</p>	<p>イ・教育相談体制に関する学校教育自己診断結果で、昨年度以上の肯定率を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定率73.6% 【 】

府立堺工科高等学校

		<p>教育支援計画」を活用した支援の充実を図る。(中学訪問を実施し「個別の教育支援計画」の引継ぎと新たに支援を要する生徒の計画の新規作成を推進する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る教員研修の充実を図る 	<p>めざす。(H30年度64%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率80%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定率81.0%【 】
<p>工業教育の充実</p> <p>(1) 専門性の向上</p>	<p>(1) ア企業等連携による専門系授業の充実</p> <p>イ各種資格取得の推進</p>	<p>(1) ア・府教育庁の「企業等連携による実践的スキル育成事業」を活用し、各専門系での課題研究等の授業の充実を図る。</p> <p>イ・資格支援センターを中心に、各系、学年と連携した取組みを継続して推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年検討した個々に応じた資格取得を促進するため、各系別の取得モデルの見直しを図る。 	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、専門性に関する項目の肯定率を80%以上をめざす。(H30年度83%)</p> <p>イ・資格取得率を各検定ごとに、昨年度以上をめざす。(H30年度平均82.1%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定率74.0%【 】 ・平均取得率63% 難易度の高い資格の挑戦もあり【 】
<p>(2) 工業教育の魅力発信</p>	<p>ウ各種技能コンテストへの挑戦</p> <p>イ広報活動の推進</p> <p>ウ課題研究の充実</p> <p>エ専門教科指導の向上</p>	<p>ウ・高校生ものづくりコンテスト等への積極的な取組みを推進する。(本年度は大阪で全国大会開催)</p> <p>(機械系：高校生ものづくりコンテスト旋盤部門、溶接技能コンクール、製図コンクール、ロボット相撲大会)</p> <p>電気系：高校生ものづくりコンテスト電気工事、電気回路組立部門への取組み強化</p> <p>マイコンカーラリーへの参加</p> <p>環境化学システム系：高校生ものづくりコンテスト化学分析部門への参加)</p> <p>(2) ア・中学校生徒へ体験入学を実施し、ものづくりの楽しさを伝え、専門教育への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の施設設備を活用して、中学校教員向けの講習を実施し、工業科教員相互の授業力向上の契機を図る。 ・地域の中学校等への出前授業等を実施し、ものづくり教育の魅力を発信する。 <p>イ・学校 Web ページの各コンテンツ内容の一層の充実を図るとともに、保護者一斉メールとの連動で情報提供の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツの情報拡散を一層図るため、昨年度から一部実施した SNS などの活用を促進する ・新規のパンフレットの作成 <p>ウ・3系が連携した内容のテーマを設定し、系の枠を超えた課題研究を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各系で系を象徴する代表的なテーマを設定して、系の特色を生かした内容の課題研究を実施する。 <p>エ・PBL 学習に向けた教員の外部研修への参加。</p>	<p>ウ・旋盤部門の上位入賞をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶接技能コンクールの上位入賞をめざす。 ・電気工事部門の大阪大会7連覇と全国大会出場をめざす。 <p>・化学分析部門の近畿大会上位入賞をめざす。</p> <p>(2) ア・体験入学の参加者アンケートの肯定率90%以上を継続する。(H30年度95%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習参加者の事後アンケートの肯定率100%をめざす。 <p>・出前授業参加者アンケートの肯定率80%以上をめざす。(H30年度未実施)</p> <p>イ・Web ページの更新回数を前年度以上をめざす。(H30年度更新回数151回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における保護者の情報提供に関する肯定率の前年度以上をめざす。(H30年度89%) ・Web ページのアクセスページビューを15万以上を継続する。(昨年201,594回) <p>ウ・課題研究発表会において、外部評価を実施し、肯定評価率80%以上をめざす。(H30年度83%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受賞者数40名【 】 ・各系別取得モデルの提示【 】 ・機械系2年の基礎製図検定全員受験を継続【 】 ・合格率95% 僅かに及ばなかったが十分な成果である【 】 ・合格率90.9%【 】 ・ものづくり旋盤作業部門大阪大会5位【 】 ・大阪府高校生溶接コンクール優秀賞受賞(5位)【 】 ・ものづくりコンテスト大阪大会：電気工事部門第1位、電子回路組立部門第1位で近畿大会に出場(両部門とも敢闘賞)【 】 ・高校生ものづくりコンテスト化学分析部門近畿大会優勝にて全国大会に出場【 】 参考：全国製図コンクール最優秀特別賞受賞(3年連続4度目) ・体験入学参加者アンケート結果、肯定率98%【 】 ・応募者がいなかったので実施できず ・我孫子南中学校7月実施 肯定率91% ・大仙小学校については2月10日に実施予定【 】 ・Web ページ更新回数146回【 】 ・肯定率74.5%【 】 ・アクセスページビュー155,519回【 】 ・肯定率83.3%【 】
<p>教員の資質向上</p>	<p>(1) ア情報共有による組織連携の強化</p>	<p>(1) ア・情報の縦の流れ(職員会議・運営会議)と横の流れ(科系・分掌・学年)の組織的な統一を図る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の教職員の会議等の機能に関する肯定率の前年度比10%向上をめざす。(H30年度26%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員：22%【 】

<p>(1) 学校組織の活性化と人材育成</p>	<p>イ 初任者等の校内研修の充実</p>	<p>イ・教科指導員と首席の役割分担による初任者校内研修の充実を図る。 ・10年経験者研修対象者の校内研修の充実 ・初任者(メンティー)と10年経験者(メンター)を組み合わせたOJTによる資質向上を図る。 ・工業科教員の技術力向上のため、教員が参加できる技術研修を実施する。</p>	<p>イ・初任者研修の達成度自己評価(事前事後報告書による)80%以上をめざす。 (H30年度77%) ・10年経験者研修対象者の達成度自己評価80%以上をめざす。 (H30年度73%) ・校内技術研修を3回以上実施する。</p>	<p>・73.3%【 】 ・72.5%【 】 ・合計7回実施した【 】 (環境化学系) (4,11,12月)「実習校内技術研修について」(7名参加) (機械系) (1月)「基礎製図検定(筆記)」(6名参加) (8月)「手がき製図の基礎練習」(8名参加) (7月)「手仕上げ3級技能検定練習会」(3名参加) (電気系) (7月~9月)企業連携事業において、熟練技能技術者の作業・技術指導見学等(延べ8名参加) ・肯定率69.7%【 】 ・肯定率100%【 】 ・活用率77.9%【 】 ・肯定率82.3%【 】 ・参加率48.5%【 】 第1回(6/26)「現場を変えるいじめの科学」45/88名参加51.1% 第2回(10/9)「外国にルーツを持つ生徒の背景理解」47/88名参加53.4% 第3回(12/6)「保護者対応」36/88名参加40.9% ・毎週水曜日の18時30分頃に各職員室を教頭が周り退庁の呼びかけを行った。90.9%【 】</p>
<p>地域との連携 (1) 地域産業等との連携 (2) 地域団体等との連携による地域貢献</p>	<p>(1) ア 堺・高石地域の地域産業との企業連携 (2) ア 生徒会・クラブ活動等を通じた地域貢献の推進 (3) ア 地域防災との連携</p>	<p>(1) ア・伝統工芸士(堺打刃物)や堺溶接業協会などの企業連携により、課題研究授業等の一層の深化(専門性の向上)を図る。 (2) ア・専門性を基盤にしたクラブ活動等により、堺市と昨年度からタイアップした企業等と連携し、古墳群などの文化遺産の継承発展や自然環境の保全活動等の地域貢献活動を推進する。 ・堺市及び大仙地域の自治会と連携した地域事業への積極的参加。 (3) ア・大仙地区の地域防災活動への参画 ・災害時における本校の対応について検討する。</p>	<p>(1) ア・該当クラス該当授業の授業アンケート結果の高いレベルでのポイント維持。 (平成30年度3.3ポイント)*満点4ポイント (2) ア・活動参加生徒の自己評価(活動充実度)における肯定率95%以上をめざす。 (H30年度は100%)</p>	<p>・環境化学システム系1つ、機械系2つ、電気系2つ 計5つの課題研究において企業等と連携を行った。該当授業のアンケート結果3.19【 】 ・今年度も堺市と協同し、いたすけ古墳濠の水質調査活動を実施し、また第28回古墳みまもり隊にも参加。活動参加生徒の自己評価(活動充実度)における肯定率100%【 】 地域連携 ・大仙校区夏祭りに参加。 ・堺まつりパレードに参加 ・堺大魚夜市に参加 ・泉北環境整備施設組合クリーンフェスティバルに参加 ・大仙地区の地域防災活動に参加【 】 ・災害時における本校の対応について検討【 】</p>